

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	870200466		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森ガーデン		
所在地	日立市小木津町1020 (電話) 0294-44-8176		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年4月4日	評価確定日	平成20年10月1日

【情報提供票より】 (平成20年4月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算	14.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建の ~ 1・2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,700 円	その他の経費(月額)	48,300 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(平成20年3月10日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	2	要介護4	5
要介護5	1	要支援2	2
年齢	平均 86.2 歳	最低 73 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井ひたちの森病院	嶋崎病院	日精歯科
---------	-----------	------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

かかりつけ医と法人内の医療機関が連携し、月2回の往診や体調の変化に応じて支援するほか、家族の希望に応じ他病院への通院介助等を行っており、利用者や家族に安心した生活を確保している。
家族や利用者の意見・要望にそった介護計画を作成し、期間に応じた見直しや毎月のモニタリングを行い、現状に即した介護計画になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は、改善課題について会議を行い、利用者の状態に応じた手すりの設置を始め、金銭管理の支援、事故報告書や職員研修の見直しを行うとともに、アセスメントに基づく介護計画の作成、モニタリングの実施など改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的について全職員に周知するとともに、自己評価を職員で話し合い改善項目を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者や家族代表、老人会代表、町内会代表、行政、民生委員、人権擁護員、他同業者管理者代表等が委員となり2カ月毎に開催している。 ホーム行事や利用者の生活状況等の報告や話し合いを行うとともに、運営推進会議での意見をサービス向上に活かしている。 運営推進会議で外部評価の結果報告を行い、課題の改善に向けた取り組みを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 電話連絡のほか、家族訪問時や家族会会議等で話し合うとともに、毎月ガーデン通信を発行し利用者の暮らしぶりを伝えている。 苦情受付担当者の配置や意見箱の設置するとともに、契約書に苦情相談機関を明示し契約時に説明をしている。 また、アンケートを実施したり苦情対応マニュアルを作成するなどサービスに反映するよう取り組んでいる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育園児や小・中学校及び高等学校の生徒のほかボランティアの訪問、体験学習の受け入れ、小・中学校の運動会や地区の祭り等の参加を通して地域の人々と積極的に交流している。
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を継続し、利用者が生きる喜びをもって生活できるよう安心と尊厳のある生活支援をしている。	○	住み慣れた地域で生活の継続や事業所と地域の結びつきを大切にした地域密着型サービスとしての理念作成を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は毎日の業務開始や終了時、会議等で理念を読みあげ、全職員で共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児や小・中学校及び高等学校の生徒のほかボランティアの訪問、体験学習の受け入れ、小・中学校の運動会や地区の祭り等への参加を通して地域の人々と積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的について全職員に周知するとともに、自己評価を職員で話し合い改善項目を作成している。 改善項目についても話し合って改善し、サービスの質の向上に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族代表、老人会代表、町内会代表、行政、民生委員、人権擁護員、他同業者管理者代表等が委員となり、2ヶ月毎に開催している。 運営推進会議での意見をサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議に外部評価結果報告を行い、課題の改善に向けた取り組みと更なるサービスの質の向上を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	学校や市の担当者と連携してサービスの質の向上に努めているが、他の行政機関との連携が少ない。	○	担当者以外の関係づくりとして、保健師を招いての研修や社会福祉協議会ボランティアセンターの利用、図書館や福祉センター、生涯学習課等との関係づくりを積極的に行い、ホーム運営やサービスの課題解決に向けた取り組みを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話連絡のほか、家族訪問時や家族会会議等で話し合うとともに、毎月ガーデン通信を発行し利用者の暮らしぶりを伝えている。 金銭管理は家族の了解を得て、ホームが立替払いにより個々に応じた支援をしており、請求時に合わせて家族に領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会議、家族アンケート等を利用して不満や要望等を聞き、職員会議等で家族の意見を反映できるよう取り組んでいる。 契約書に苦情相談機関を明示するとともに契約時に説明している。 また、苦情対応マニュアルを作成している。		
9	18	職員の異動等による影響の配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族の意見を尊重し、職員の異動は最小限に抑えるよう努めている。 また、家族訪問時や広報紙で紹介する等、異動による影響に配慮した支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	県主催の研修や市保健所主催研修のほか、ホーム独自の研修や法人内研修を年間通して開催しており、職員は積極的に参加している。 また、職員会議等で報告するとともに、研修報告書や資料を回覧し、職員は研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流や法人内グループホームと交流している。 また、運営推進会議に地域のグループホーム管理者が参加し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する利用者や家族のいる施設、病院等を職員が訪問し、利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、面接や調査を実施し記録している。 また、家族等の相談やホーム見学を受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに喜んだり、野菜の作り方や生活の工夫等を教えてもらったり励まされたりとともに支えあう暖かな関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日誌や申し送りノート、フェイスシートの記録を活用したり、家族との話し合いや日々のかかわりの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者、職員等と話し合い介護計画を作成している。 介護計画は利用者や家族に説明し、共有を図るとともに家族の確認印が押印してある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間を短期は3ヵ月、長期は6ヵ月と定めて見直している。 また、毎月モニタリングを実施し、状態の変化に応じて見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じ通院介助や早期退院の支援をしている。 また、家族が宿泊できるよう準備している。 ホームには公衆電話が設置してあり、自由に使用できるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回法人内病院より往診があり、利用者や家族の安心した生活が確保されている。 また、利用者や家族の希望に応じてかかりつけ医の受診支援や歯科医による訪問診療を行っている。 受診や通院は、利用契約時に説明し利用者や家族の同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合における対応に係わる指針を説明し、同意を得ている。 利用者の状態に応じて、利用者や家族、医療機関、職員等で話し合い、重度化に向けた対応方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、トイレ介助や居室の出入り、電話や手紙の支援など利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアや記録に取り組んでいる。 また、契約時に個人情報取り扱いについて説明し、関係書類等は決められた場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調に配慮するとともに、その時の利用者の気持ちを尊重し、食器の片付けや洗濯たたみ、モップ掛け、草取り、本・新聞・広告を読むなど柔軟な対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、食事の準備や後片付け等利用者ができることを一緒に行っている。 職員も利用者と一緒に同じメニューを和やかに食べたり、自助具を利用しての食事支援、服薬や食べこぼし処理等の支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりにあった楽しみや気晴らしの支援をしている。 また、ホーム行事等の飾り付けや作品作りを通して、張り合いや喜びへの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により散歩や買い物、ドライブ、行事等の外出、他事業所との交流の支援をしている。 また、家族による外食や外泊の支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全面に配慮しながら、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。 ホームの夜勤者は職員1人対応となっているが、ホームに隣接して法人内施設が4施設あり、災害時における協力体制ができています。	○	夜間を想定した避難訓練の実施や地域の人々・消防団等の協力が得られるよう取り組むことを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人施設の栄養士による献立や利用者の希望にそった食事支援をしている。 職員は利用者の食事量や水分量、摂取カロリー等を把握するとともに、利用者の身体機能に応じて補助具の使用や刻み食等の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には畳の部屋に炬燵、椅子や机、利用者の手作り品等が配置してあり、玄関には観葉植物や椿、菜の花や桃の花等季節の花を飾っている。 廊下には籐椅子、庭にもテーブルや椅子を置き、利用者同士がくつろいだり一人で過ごせる居場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者や家族と相談し、使い慣れた馴染みの時計や家族の写真、椅子や小物入れ、テレビや手作り品、コップや歯ブラシ、手鏡や化粧品等馴染みの物を整理して配置し、居心地よく過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。